

東日本大震災の被災地では、本格的な復興へ踏み出そうとしている地域がある一方、いまだにがれきが積み上がったままの地域も残されている。関西が被災地の復興、さらに日本の再生をリードしなければならぬ。

関西は韓国に匹敵する経済規模があるが、被災地そして日本の経済を背負うには、産業の足腰をもっと強化する必要がある。その点で重要なのは競争力を強化するための産学連携と、担い手である人材の育成である。

関西には京都大、大阪大、神戸大をはじめ、日本を代表する大学が多く存在し、ユニークな研究や教育を進めている。厚みと多様性に富んだ知識や人材が蓄積されている。こうした大学の力を、

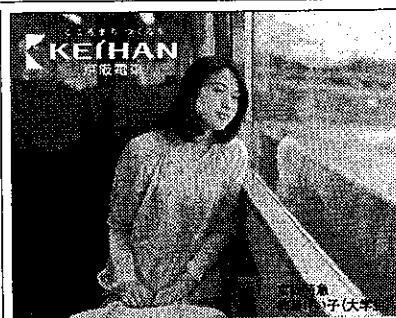


関西経済連合会会長

森 詳介氏

もり・しょうすけ 1940年生まれ。63年京大工卒、関西電力入社。97年取締役、2005年に社長、10年から会長。関西経済連合会では07年に副会長、11年5月に会長に就任。

取り、関西の優位性をアピールしていきたい。関西が強みを持つ環境・エネルギー分野も産学連携が進んでいる。水を浄化する処理膜分野は関西企業が世界で高シェアを誇るが、台湾や韓国の追い上げも激しい。神戸大が民間企業と「先端膜工学研究推進機構」を立ち上げ、産学で切磋琢磨



「人材パイプライン」の確立が求められる。海外人材を受け入れる企業としては、知識や技能に加え、日本語が話せ日本文化を理解していることが採用の大前提になる。大学には日本語と文化の教育を強化してほしい。留学生に日本の組織になじむ力があれば、企業の採用意欲は高まる。先端研究をビジネスに変えたり、異分野の研究を掛け合わせたりする

「目利き」がの育成も欠かれた大学が集は、イノベーションの宝庫だ。目ある人材の育成企業と大学であり方を議論電気・土木

ビジネス化目利き役必要

基調講演

日本再生に向けた産業の活性化に最大限活用させていきたい。大阪駅北側の再開発地域「うめきた」に建設予定の「ナレッジ・キャピタル」を産学連携の拠点に育てたい。人や物が集まる場所に大学の知力や

企業の技術力、アートやデザインを集積させる。そこから日本の屋台骨を支える新しい産業が生まれる可能性もある。9月30日には関西の6府県市が「関西イノベーション」を産学連携の拠点に育てたい。人や物が集まる場所に大学の知力や

シ・キャピタルなどの拠点を「一面」でつなぎ、地域全体のイノベーションを底上げする目的だ。申請に先立って設置した協議会には京大・阪大・神戸大をはじめ、オール関西の産学官が参加している。特区の指定を勝ち

（せつさたくま）する場を提供したのは心強い。人材育成の一環で、海外の高度な人材を引き込む必要がある。現在は海外から関西に優秀な人材がどんどん集まる状況はない。留学生がそのまま関西企業で活躍できる

「人材パイプライン」の確立が求められる。海外人材を受け入れる企業としては、知識や技能に加え、日本語が話せ日本文化を理解していることが採用の大前提になる。大学には日本語と文化の教育を強化してほしい。留学生に日本の組織になじむ力があれば、企業の採用意欲は高まる。先端研究をビジネスに変えたり、異分野の研究を掛け合わせたりする

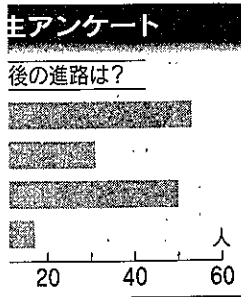
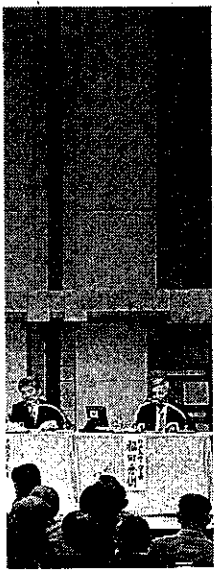
「目利き」がの育成も欠かれた大学が集は、イノベーションの宝庫だ。目ある人材の育成企業と大学であり方を議論電気・土木

関西3大学学長シンポ

「日本復興へ、関西の知の役割」

日本経済新聞社は9日、「関西3大学 学長シンポジウム」を開いた。パネル討論には、京都大の松本紘総長、大阪大の平野俊夫総長、神戸大の福田秀樹学長が参加。「日本復興へ、関西の知の役割」をテーマに、東日本大震災からの復興に向け、産学連携のあり方やグローバル人材の育成な

討論するパネリストら（9日、大阪市北区）



前向き5割

日本経済新聞社は10月20日に京都大、大阪大、神戸大に在籍する留学生にアンケート調査を151人から回答を得た。男1.卒業後の進路に関する質問で働きたい」「仕事が見つかるも母国でもよい」との回答が